

NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』放映により 静岡県内で発生する経済波及効果の試算

一般財団法人企業経営研究所

1. 試算の経緯と概要

2022年1月から放映が開始されるNHKの大河ドラマ『鎌倉殿の13人』においては、静岡県の伊豆・東部地域が主要な舞台の一つとなります。

ドラマの主人公 北条義時の出生地である伊豆の国市には「大河ドラマ館」が設置され、1月のオープンが予定されています。また、静岡県と同市を含む東部・伊豆地域20市町、観光・商工関係団体等では「大河ドラマ『鎌倉殿の13人』ゆかりの地 伊豆・富士山周遊促進連絡協議会」を設置し、北条義時や源頼朝などにかかわる歴史・文化資源を活用した誘客、広域周遊の促進等に取り組んでいます。

当研究所では、今回の大河ドラマ放映により、静岡県内を訪問・宿泊する観光客の増加が見込まれることから、これに伴って発生する静岡県内への経済波及効果について、公表されている観光関連統計等に基づき、以下の通り試算しました。

なお、詳細な試算過程は次ページ以下に示しています。

大河ドラマ放映に伴う静岡県内への経済波及効果（推計）

直接効果	間接効果	合計
106 億円	52 億円	158 億円

【注意】

- ① 今回の試算においては、観光庁や静岡県が公表している観光関連統計等をベースに、いくつかの仮定的条件を加えたうえで算出しています。したがって、試算結果は確定的なものではなく、実際には相当の上下幅があるものとしてご理解をお願いします。
- ② 特に、今回の試算においては、新型コロナウイルスの感染拡大による経済社会へのマイナス影響がない状態を前提条件としていますので、ご注意ください。

2. 経済波及効果の算出過程

【注】以下に示す人数、金額、割合等は四捨五入表示しているため、数値の合計や%が整合しない場合があります。

(1) 経済波及効果算出の前提

大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の放映により、静岡県内で見込まれる観光入込客数（宿泊・日帰り）の増加（年間）に伴って発生する観光関連消費額の増加分を、経済波及効果算出における需要増加額とみなします。この需要増加額から「平成27年静岡県産業連関表」に基づいて生産誘発額（直接効果、間接1次効果、間接2次効果）を算出し、その合計を、今回の試算における経済波及効果とします。

直接効果	需要増加額のうち、県内生産の増加に直接結びついた額。
間接1次効果	直接効果が生じたことによって、そこから波及的に生じる新たな生産増加額。
間接2次効果	直接効果と間接1次効果による雇用者所得額の増加から2次波及的に生じる生産増加額。

（出所）「経済波及効果分析ソフト（平成27年一般波及108部門）」（静岡県公表）

(2) 観光入込客増加数の推計

- ①観光入込客数については、先行する他の経済波及効果推計事例を参考に、大河ドラマの放映により、静岡県全体での宿泊客・日帰り客がそれぞれ一定の割合（期待増加率）で増加することを前提とします。
- ②増加の基準となる観光入込客数は、「共通基準による観光入込客統計」（観光庁）における静岡県の「観光入込客数（日本人・観光目的）」とします。ただし、2017年以降の静岡県分の数値は当該統計に掲載されていないため、直近のデータである2016年の実績値を使用します。
- ③静岡県を主要な舞台として2017年に放映された大河ドラマ『おんな城主 直虎』を先行事例と位置づけ、これと同程度の割合で宿泊客・日帰り客が増加するものと仮定します。すなわち、「静岡県観光交流の動向」（静岡県）に基づき、2016年度と比較した2017年度の静岡県内の宿泊客・日帰り客の増加率を算出し、これを期待増加率として設定します。→（図1）
- ④②の観光入込客数に対し③の期待増加率を乗じることで、宿泊客・日帰り客それぞれの増加客数を推計します。→（図2）

(図1) 宿泊客・日帰り客の期待増加率

		宿泊	日帰り	合計
2016年度	千人	19,433	133,508	152,941
2017年度	千人	19,805	136,678	156,482
増加率	%	1.9	2.4	2.3

(図2)

		宿泊	日帰り	合計
2016年入込客数	千人回	13,035	53,167	66,202
期待増加率	%	1.9	2.4	-
期待入込客数	千人回	13,285	54,429	67,714
増加客数	千人回	250	1,262	1,512

(3) 観光客による消費増加額の推計

①観光消費額単価（観光客1人回当たり）は、「共通基準による観光入込客統計」（観光庁）における静岡県の「観光消費額単価（日本人・観光目的）」の平均値とします。

→ (図3)

②①で算出した観光消費額単価について、(2)で推計した増加客数に乗じた金額を、静岡県内における消費増加額（需要増加額）として推計します。→ (図4)

(図3) 観光客の観光消費額単価

(円/人回)

年	宿泊	日帰り
2010	24,679	12,024
2011	20,727	10,858
2012	22,100	10,233
2013	21,631	8,151
2014	22,442	10,560
2015	20,829	8,203
2016	20,794	7,260
平均	21,886	9,613

(図4) 消費増加額（需要増加額）

		宿泊	日帰り	合計
増加客数	千人回	250	1,262	1,512
観光消費額単価	円/人回	21,886	9,613	-
消費増加額	百万円	5,463	12,133	17,596

〔４〕静岡県内における経済波及効果の試算

- ①（３）で推計した消費増加額を需要増加額として、産業連関表における「産業中分類」の各部門分類に配分します。配分する際の割合（構成比）は、「旅行・観光サテライト勘定（2019年）」（観光庁）中の「参考表 購入時期別内部観光消費及び国民観光消費」に示されている商品別の消費金額構成比を使用します¹。→（図５）
- ②静岡県が公表している「経済波及効果分析ソフト（平成27年一般波及108部門）」に①の値を入力し、「平成27年静岡県産業連関表」に基づく静岡県内での経済波及効果を算出します。→（図６）

（図５）需要増加額の産業中分類への配分

	宿泊		日帰り		合計額 百万円	産業連関表における部門分類（中分類）
	構成比	金額	構成比	金額		
	%	百万円	%	百万円		
宿泊費	25.2	1,376	0.0	0	1,376	671 宿泊業
鉄道交通費	11.4	624	14.4	1,745	2,369	571 鉄道輸送
道路交通費	13.4	730	24.3	2,953	3,683	572 道路輸送（自家輸送を除く。）
船舶交通費	0.6	33	0.2	21	54	574 水運
航空交通費	8.8	479	3.9	476	954	575 航空輸送
飲食費	14.4	784	13.9	1,683	2,467	672 飲食サービス
土産代・買物代	15.4	843	27.7	3,358	4,200	511 商業
入場料等	7.1	388	15.1	1,827	2,215	674 娯楽サービス
その他	3.8	207	0.6	70	277	691 分類不明
総額	100.0	5,463	100.0	12,133	17,596	

（図６）需要増加額、経済波及効果

需要増加額	直接効果	間接効果		生産誘発額計
		間接1次効果	間接2次効果	
176.0 億円	105.9 億円	29.2 億円	22.6 億円	157.7 億円

¹ 「国内観光消費」欄中の「宿泊旅行」「日帰り旅行」における各項目の構成比に基づきます。ただし、一部「共通基準による観光入込客統計」（観光庁）による静岡県における県内/県外客構成比を加味して修正しています。